
夢と妄想のゴミ箱

たけ10005

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢と妄想のゴミ箱

【Nコード】

N8027F

【作者名】

たけ10005

【あらすじ】

これは寝て見た夢や日常会話、メールをきっかけに妄想を広げて何本もの小説にした、小説ゴミ箱です。つまらないものは載せないように心がけてます。愉快な話やホラーを不定期に連載します夢の物語にリアリティや推敲を求めないください。ジョーダンが通用しない人もオススメできません

バイオパークカルテット〜四重奏〜（前書き）

今回は夢シリーズ。

ホラーっぽいですが、映像でなければ怖くはないかと。グロテスクな表現があります。ご注意くださいませ。

題名にあるように、オチが四重奏となっております。夢では三重奏でしたが、四重奏の方が語呂良く一つ増やしました。夢では最後はシューティングゲームでした（笑

バイオパークカルテット〜四重奏〜

時は未来。地球から月、火星水星など、宇宙へ人々が移民する時代。ここは月。……のハズだ。

しかし今は廃墟と化し、人の死体が……無い。そう、喰われてる。人肉はグチヨグチヨ、人骨はボキボキと食べられる。

しかし。しかしだ。

ここにはラーメン屋が開業している。

さっそく入る。

客がいた。しかし、これは飢餓の妖怪……腹はぼっこりと膨れ、骨と皮しかないような体とこけた頬にギョロリとした眼球。目というより眼球なのだ。餓鬼と言ったか？ そのような人々。生きているのか？

声をかけてみる。

「すみません……」

すると、ゆつくりと、しかしはつきりとこちらを向く。しかし無言。器を覗くと、そこには青緑のスープ以外は普通のラーメン。

恐る恐るラーメンを頼む。すると普通のラーメンがくる。

「やった！ いただきます」

ふと横を見ると、ドリンクバーのジュースをラーメンの中に入れ、食べる姿が。スープの色は緑に変色。

なるほど。と合点がいく。さしずめそのラーメンはメロン味か？

僕は普通のラーメンをすする。

ラーメン屋を出ると、実状を本部に報告するために通信器を出した。その時！

ドンッと衝撃が走り前につんのめる。

そこには餓鬼が。

ガブリと腕を食いちぎられる。ボキリと足が折れる。
痛い。止めて！

「そうか、こいつら調査団を食ったのか……。まさか、気持ち悪い
ラーメン食べたなら襲われなかったのか……。？」

機関銃の音が聞こえる。

「ヴァ」

なんだこの声は。新生児の産声の正体は悪魔！　みたいな声は。
僕は生きているのか？と声にだす。

「ヴァ」

近い。バケモノが近くに？　と、というか僕の声は？
苦しい……。と声にだす。

「ヴァ」

僕は幽霊なんだと思った。仕方ない、見守ろう。
すると、僕に銃口を向けられる。

あれ？見えてる？おゝい！みんな！

「ヴァ」

殺される。

そう、殺された。軽快な音とは裏原……。そりゃ僕の名だ。裏腹に、激
しい衝撃。機関銃の弾は、当たるたびに弾けるようにダメージを与
える。それは絶対的な破壊兵器だ。

意識が戻る。

なぜ生きているのか……。？

ふと、自分を見ると餓鬼のよう。

これはラーメン屋で見た姿。

これはさつき虐殺されていた姿。

逃げる。殺される。逃げる。殺される。

その繰り返し。幾万、幾億繰り返し返されたのか？

船がある。逃げよう。

あれ？操縦の仕方がわからない。よく見れば自分の乗った宇宙船とコンソールが似てるのにわからない。

そうか。やっと理解した。人として死んだんだ。だから記憶が断片的でつながらない。判断力も落ちている。

この転生……これはこの月の魔力だ。

後に分かったが、ラーメン屋で周りと同じ食べ方をしたなら、仲間と思われ攻撃されなかった。故に生き残り、対処法も見つかるはずだった。

- - B a d e n d - -

バイオパークカルテット〜四重奏〜（後書き）

いかがでしたか？

オチ正解率は低いかと。最後の最後のみ予想通り。あちゃー！ 予想ハズレ。と思った時当たった！ 心地良くなりました？ 全く無い？ 申し訳ありません

思い出の忘れ物（前書き）

この話は夢原作。文字数足りないので加筆修正しました。

グロテスクではありませんが、戦闘描写の無いヴァンパイアハンターとその周りの女達。

源氏物語でなく、あくまでも思い出が降る夜なのです。

思い出の忘れ物

殺し屋が雇われ夜行列車内の政治家を殺す依頼を受けた。

「昨日話した通りだ。ジャン、これで頼む。十万ドルだ」

「了解、エドワードさん。しかしターゲットは見つからないですね……片っ端から殺しましょうか？」

エドワードは大慌てになる。

「勘弁してくれよ、もみ消すことなどできんよ」

「そう、もみ消すなんてできない」

二人はギョツと周りを見渡す。

俺は、おくびもせずドアを開ける。

ジャンは拳銃を向ける。

「よく逃げなかったな。仕事をする」

俺はふつと笑う。

「できるのか？俺を殺すことなど」

「ジャン、ターゲットとこの男だけを殺してくれ」

「ヴァンパイアハンターを殺すか？見たところただの人間のようなが？」

『ヴ、ヴァンパイアハンター！？』

「……エドワードさんよう、おりゃあ降りるぜ。後は勝手にやってくれ！」

「させるかよ！」

轟く銃声。闇は引き裂かれ、乗員の叫び声がこだまする。

「エドワードとやら。命が惜しかったら自首するんだな」

「は、はひ……」

「何事！？キャツ……って、アル！」

「エリー……」

昔離ればなれになった幼なじみと再会した。

なんという因果だろう。ヴァンパイアハンターの家系に生まれ、昔から恐れられていた俺を愛した女、エリー。

「この列車空港行きよ？ どこに行くの？」

「行くんじゃない。帰るんだ。今は日本で働いてる。ヴァンパイアも海外遠征の時代でね。一部のヴァンパイアは黄色人種の血が好物らしい。今日はハンター協会の会合の帰りだ」

事情を知った客やスタッフが続々と集まってくる。

「住所を教えてください！ お礼をしたいのです」

「お気遣いなく……とはいきませんね。わかりました」

数日後、国際便で贈り物が届いた。

有志一同

その中に、エリーから手紙が届いた。

アル、アメリカに戻る気無い？ 私はあなたの帰りと返事を待ってる。ヴァンパイアハンターが危険な仕事だとわかってるけど、だからこそ添い遂げたい。若い頃の私は確かに拒絶こそすれど、貴方が死ぬのを看るのが嫌で家を出て行った。だから……だからこそ、今度は正面から向き合いたい。最後にバレンタインのチョコ……食べて

「そういえば、結局別れ話するわけではなく別れたな。。。」

「離ればなれになってそれっきり」

俺はしばらく物思いにふけた。エリーと暮らしたこともあった。

エリーは両親がヴァンパイアに殺され、その敵を俺が討ったからこそ執心になったと思う。家賃が得だとか、自炊して恩返しなんて口実だろう。エリーはまだ、幻影に捕らわれている。

でも今の俺は……

「おはよ……」

現恋人、聖子がノックを開いたドアにして申し訳なさそうにたたず

んでる。

「聖子……」

聖子の視線は斜め横、俺の手元に流れる。

「何？ それ……」

俺はそのエリーからのプレゼントを持ち上げて、手元でコロコロ転がす。

「これか？ 子供の忘れ物さ……」

「ん……」

聖子はうつむいてしまう。口元をもしもじさせ、眉はハの字になる。

「お前だけを愛してる。……ダメか？」

「ダメってわけじゃないけど……」

「気にするな」

俺は言い切る。脅しじゃない。やましいことなど無いと言い切ったのだ。多分伝わったと思う。

「分かった……気にしない」

そしてキス……。

口唇から力が抜け、コトリとプレゼントが落ちた。

彼女はそつと俺の手に自分のチョコを握らせる。

（ごめんな……思い出よ……エリーよ……今は夢を見てはいられないんだ……この素直で小さくか弱き日本人を守りたい。だから、今を生きる）

思い出の忘れ物（後書き）

面白い所は最初と最後が全く違う展開に。しかし目覚めかけた頭はなぜだか私の意のままに夢が動きだす、マレかマレじゃないかもわからない性質のプレゼンテーションと言った感じ。
もうこのレベルの展開は書かないかも

とあるアクションの禁書目録／インデックス／（前書き）

これは週刊少年ジャ○プの夢です。ネタがわかる人にはネーミングが笑えるかも。

わからない人にはつまらないので読まないでください。ブリ○チとワ○ピース知らない人はあまり批評せず、感想までにしてくださいませ。

夢では名前は無く、黙々と戦っただけだったので、著作権モノのパロディではなく、あくまでも”夢”なので名前もパロディにしました。シナリオ展開はかなり忠実です。多少文字数増やしましたが。

とあるアクションの禁書目録〜インデックス〜

今日も今日とてお仕事帰り。

僕が居酒屋で、友人である悠人と呑んでいる時、携帯ゲーム機DSの新作ゲーム”とあるアクションの禁書目録〜インデックス〜”を取り出した。

「とあるアクションの禁書目録か！ 話題だよな。漫画雑誌”週刊大人、伏せ”のオールスターゲームだろ？」

「ああ、”伏せ”は面白い。初回限定生産版で、特典はSP2ゲームソフトなんだよ！ 価格は税込み一万ちょいだけど、三ヶ月前から予約した」

「俺はSP2ゲーム”赤坂遥の秘密〜こすぶれ、はじめました〜”買ったよ。初回限定生産版で九千円くらいかな？ 聖地巡礼のついでに発売日に春葉原に行ったけど、限定版どころか通常版も、どこ

行っても売り切れで、地元に戻ったら限定版あつてさ！ゲーム機、リアルキャストの時同様、人気作は聖地には無いね」

「お前さんはオタクだねえ……リアルキャストって、どんなタイトルのゲームあつたっけ？」

悠人がノってきて、顔を近づける。

「rockとか地冬！ rockはラストにヒロインが生き返ってさあ……地冬は死ぬけど泣きゲーの真骨頂……」

「近い近い！わかった！ギャルゲーの話はいい！」

そんな他愛もない？ 会話をしながらゲームを起動する。

するとゲーム機に吸い込まれ、ゲームの世界へ。

スタート地点は呑んでた店先の外。

もう一度入ると、そこはやはりゲームの世界だった。ちなみに、友人悠人は消えた。入って来なかったのか？

始まった物語は、ぷりんという、日本刀のような刀、全敗刀を振り

回す戦いが繰り広げられる、アニメ化、ゲーム化、映画化した漫画だ。

ダンジョンがあった。そう、ぷりんのゲーム世界に引きずり込まれたのだ。

どこかで見た老人… 本山総隊長だ。

「あの…」

「なんじゃ？」

「もしかして、本や……」

「伏せい！」

「そう、」週刊大人、伏せ」の……って、痛っ……」

山本は僕を地面に叩きつける。

と、同時に頭上を空気の刃が疾る。

「来おったな！？ワッパ！」

最強の炎系全敗刀、”止刃老化”を”満開”した。初めて見た。止刃老化の満開！

……なにやら回数制限があるかも？ 炎を二発使った。あの本山総隊長が満開……強敵である。

チキンな僕は柱から見守った。山本総隊長と止刃老化はいつ見てもカッコイイし、強い！止刃老化は杖っぽい所がツボ。

何せ崩壊三十隊の総隊長で、隊長格二人相手に一度”初開”で戦っただけで、能力は未知数だからな……。

まさかゲームで見れるとは！

そんな中、悠人はやはりゲーム世界に引きずり込まれた。

”一万ピース”のユフィ登場。

ダンジョンは城。ねずみいランドのようだ。

中で迷子になったが、”ぷりん”のイチゴとヴァキアが近くに居て合流した。オールスターの醍醐味だね。

ユフィ達は、敵の気配を察知した。慌てて気配の下に向かう。

そして、本山総隊長とユファイ達が合流。

「燃え盛れ、止刃老化！」

「鉄鉄のガトリング！」

「舞え、雨乞い！」

「切り裂け、斬陽！」

四人が同時に攻撃！

「ワシを！」

「俺を！」

「私を！」

「誰だと思つてやがる！？」

爆砕。そして沈黙。

悠人と僕は、沈黙に耐えきれず口を開く。

『やったか？』

『やった、な』

四人がハモった。このパーティーは最強だ！ちょっと”ぷりん”率高いけど、このパーティーに決めた。

ところで、イチゴの”誰だと思つてやがる！？”って違う作品じゃ……？

まあ、いいや。もうすぐ目覚める。。。この思い出を忘れないようにしなきゃ。

とあるアクションの禁書目録／インデックス／（後書き）

なにげにタイトルは電撃文〇の作品のパロ、ラストのイチゴのセリフは天〇突破グレ〇ラガンの名セリフです。こちらはセリフだけだいてしまいました。ハマってます（笑）セリフ変えた方が良くなら変えます。

スーパー温泉（前書き）

最初は温泉なんて出ない。最後まであんまり意識しないまま終わる。そんないいかげんな、のろりした空気でこー読んで下さいませ。苦情は受け付けられません。なぜかと言うと、この夢小説（文章）には意外性しかありません…メッセージ性も、文の芸術性も無いからです。

スーパー温泉

夢の話……

僕は、ゲームをしていた。テレビ画面はブラウン管のように思えたが、なんであるかは この際関係ない。

これはRPGで、主人公は開拓者兼魔王をたった一人で倒しに行く勇者だ。

開拓した街を温泉の街にした。

なに、私の地元が富士山のふもとで、箱根の近くだから発想しただけだ。

ゲームでは火山があり、その山頂にボスがいる。ボスは倒さなくても懲らしめればが、漢かんのドリル（深読みしないこと）で倒す。やつぱり漢のロマン、ドリルだね！と、勝利の雄叫びを上げる。

火山からモクモク出る世界を汚染した空気は消える。クリアかと思う。

しかし、新たにスゴロク式シュミレーションゲームがスタート。一億円以上の売上で卵ゲット！

卵をふ化させると、たまご〇ち みたいに、ヒヨコで遊べる。

ふ化したヒヨコのメニュー画面はわかりづらかった。夢を見る本人の知識が無意味な知識だけだから。プロは違うだろう。

試行錯誤して、後ろを付いて行かせ、ヒヨコが興味を持ったのは布団。「起きたばかりで寝るな！」おもはず叫ぶ（なぜ古文流の書き方……？）

次に興味を持ったのは、株式……マテ。温泉のドコに株式表示板がある！？デカルチャ〇！（マク〇斯的に）オジサン、株式なんてわからないよ……”〇列車で行こう”で絶対倒産しない会社の最低時点である株を、折れ線の山の頂点に達して落ち始めた直後に売り

払い、二年で一億売り上げたただけだよ……リセットは皆無だったけど。空港付きで借金がすごいマップだったんだよ……。街作りより、株の方が楽しかった。値が動くまで、ヒマな時間多いけど。

そこで隣で同じPCゲームしてる友達がヒヨコにアルバイトさせて稼ぎ始める。なぜだかヒヨコのバイト代だけPC上のお金に換金できる。

僕は初めてPCゲームだと気づく。

専用USBフラッシュメモリーという機械で携帯ゲームにできた。

（やっぱりヒヨコっただけ。一時的流行った、ポケット○テーションみたいな、画面付き。）

さっそく、ヒヨコでやってたモグラたたき（いや、正確には穴の外にいるヒヨコ食い男の口から逃れつつ、頭を穴から出さなければならぬ、ホラーなゲーム）を止め、僕もバイトさせる。

今までのスキルを利用し、高レベルのバイトも、逆にバイトでスキル覚えるのもできる。

と、突然目覚ましベルが鳴る。

スーパー温泉（後書き）

いかがでした？ 私が投稿した理由は一つ！ 結末が見えない！
先読みできた小説書いてる方いらっしゃいましたら、教えてください！
い。作品読めます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8027f/>

夢と妄想のゴミ箱

2010年10月9日08時23分発行